

KBM ラインチェック nCoV/Flu <Q&A よくあるご質問>

【検体採取について】

Q. キット付属以外の綿棒でも使用できますか？

A. いいえ。キット付属の綿棒をご使用ください。

Q. 採取した検体はどのくらい保存できますか？

A. 採取した検体は、保存せず、できるだけ早く【用法・用量（操作方法）】に従い、前処理を行い、検査してください。

Q. 綿棒を検体採取前に抗原抽出液に浸してしまっただが、このまま検体採取はできますか？

A. いいえ。抗原抽出液が付着した綿棒での検体採取はできません。新しい綿棒を用いてください。

【操作について】

Q. 抗原抽出液が多量にふたの内側に付着していましたが、このまま検体を希釈しても大丈夫ですか？

A. 検体の前処理時に抗原抽出液をしっかりと容器底部に落としてください。抗原抽出液がふたの内側等に残っている場合、正確な結果が得られない可能性があります。

Q. 使用前にテストデバイスをアルミ袋から出しておいても大丈夫ですか？

A. テストデバイスの入ったアルミ袋は使用時まで開封しないでください。アルミ袋開封後は、30分以内に使用するようになしてください。

Q. 綿棒に鼻水が多量に付着しましたが、このまま検査しても大丈夫ですか？

A. 強粘性の試料は、生理食塩液で2倍希釈して使用してください。検体の粘性が高い場合、滴下ノズルが詰まる場合があります。

Q. 滴下時の注意点はありますか？

A. 試料の滴下は、抗原抽出液容器を垂直にし、試料滴下部に近づけすぎないようにして、ゆっくりと所定の量（3滴、80～100 μ L）を滴下してください。所定量以外の場合、正確な結果が得られない可能性があります。また、滴下ノズルを装着しないで試料をテストデバイスに滴下すると、正確な結果が得られない可能性があります。



KOHJIN BIO

【判定について】

- Q. 静置時間（15分）経過前にテストライン（CoV 又は Flu）が現れた場合、陽性と判定できますか？
- A. 静置時間（15分）経過前であっても、滴下後 1 分以降にコントロールライン（C）とテストライン（CoV 又は Flu）のいずれも認められる場合には、陽性と判定できます。陰性と判定するためには、必ず静置時間（15分）で判定してください。
- Q. テストラインのみ発色が認められましたが、陽性と判定できますか？
- A. いいえ。コントロールラインの発色が認められない場合には、検査は無効と判定してください。抗原量が異常に多いことが考えられますので、試料を抗原抽出液で希釈し、再検査してください。
- Q. テストラインもコントロールラインも認められませんでした。陰性と判定できますか？
- A. コントロールラインが認められない場合には検査は無効ですので、別のテストデバイスで再検査してください。
- Q. 判定部にテストラインと垂直な赤紫色の薄いスジ状のラインや斑点状の滲みが認められました。検査に影響はありますか？
- A. 判定部にテストラインと垂直な赤紫色の薄いスジ状のラインや斑点状の滲みが出現したり、展開部全体が薄くまばらな赤色に色づいたりすることがありますが、判定結果に影響はありません。コントロールラインが認められる場合はそのまま判定してください。
- Q. 静置時間（15分）経過後、しばらくしてからテストライン（CoV 又は Flu）が現れた場合、陽性と判定できますか？
- A. 試料滴下後 30 分以上経過したときに判定部に不均一なラインが出現する場合がありますが、抗原抗体反応とは無関係である可能性がありますので、この時点での判定は無効となります。
- Q. 判定部のライン出現位置が白色に抜けて見える場合、陽性と判定できますか？
- A. 判定部のライン出現位置が白色に抜けて見える場合がありますが、陰性と判定してください。
- Q. 鼻腔拭い液を採取した際に、鼻水が多量に付着しましたが、検査に影響はありますか？
- A. 試料の粘性が高まることで、正確な結果が得られない可能性があります。また、検体中に金コロイド標識抗体と凝集しやすい物質や、展開部に物理的に吸着しやすい物質が存



在する場合、検体の粘性が高い場合には、偽陽性となることがありますので、確定診断は臨床症状などを加味し、総合的に診断してください。

【使用又は取扱いについて】

Q. キットに使用期限はありますか？

A. はい。外箱に使用期限が記載されております。使用期限の過ぎたキットは使用しないでください。

Q. キットは複数回使用できますか？

A. いいえ。キットは1回のみの使用となります。

Q. 製品はどのように保管すれば良いですか？

A. 本品は、品質の低下を防ぐため、高温多湿及び直射日光を避け、2～30℃で保存してください。また、凍結した試薬は使用できません。

Q. 使用済のものはどのように廃棄すれば良いですか？

A. 本キットや検体採取に使用した綿棒などは一般廃棄物として各自治体の廃棄方法に従って廃棄してください。使用後の綿棒等は感染性を有するおそれがありますので、廃棄時の取扱いには十分注意し、使用したキット（綿棒、チューブ等を含む）をごみ袋に入れて、しっかりしばって封をする、ごみが袋の外面に触れた場合や袋が破れている場合は二重にごみ袋に入れる等、散乱しないように気を付けてください。

＜お問い合わせ先＞

この製品についてのお問い合わせは、お買い求めのお店又は下記にお願い申し上げます。

連絡先：コージンバイオ株式会社 東京オフィス

T E L：03-5459-1575

受付時間：10：00～17：00（土日・祝日・年末年始除く）



KOHJIN BIO